

観世流 能 百万

シテ(百万) 多久島法子
子方(百万の子) 水田 兼暉
ワキ(里人) 喜多 雅人
ワキツレ(従者) 中村 宣成
ワキツレ(従者) 矢野 昌平
アイ(門前の者) 善竹 忠亮

後見 大槻 文藏
立花香寿子
地謡 笠田 祐樹
今村 哲朗
上野 雄介
井戸 良祐
山田 薫
梅若 猶義
井内 政徳
今村嘉太郎

休憩十五分

和泉流 狂言 附子

シテ(太郎冠者) 泉 慎也
アド(主心) 小笠原 匡
小アド(次郎冠者) 山本 豪一

後見 奥井 智大

観世流 仕舞 嵐山

あらし 林本 大
ひばり 梅若 猶義
雲雀山 山中 雅志
ふな 船橋

地謡 上野 朝彦
今村嘉太郎
齊藤 信輔
井内 政徳

休憩十五分

宝生流 能 野守

前シテ(野守の翁) 辰巳 大二郎
後シテ(鬼) 福王 知登
ワキ(山伏) 上吉川 徹
アイ(里人)

後見 石黒 実都
内藤 飛能

地謡 辰巳 和磨
和久荘太郎
當山 淳司
山内 崇生
東川 尚史
小倉伸二郎
亀井 雄二
澤田 宏司

終演予定 午後四時三〇分

番組解説

「子を怨み、身をかこち、肝膽してぞ祈りける、親子あふむの袖なれや、百万が舞を見給」
能《百万》 ひやくまん

里人(ワキ)は大和国西大寺のあたりで幼い子ども(子方)を拾ったが、その子の気晴らしのために、大念仏を行っている嵯峨の清涼寺に赴く。門前(者(アイ))が念仏を唱えると、百万と呼ばれる狂女(シテ)が現れ、念仏の拍子が悪いと割り込んで、笛を持ち自ら念仏の音頭を取る。百万は子と生き別れたために心が乱れていると述べ、清涼寺の本尊である三國伝来の釈迦如来像に我が子との再会を祈願する。子どもは百万が自分の母であることに気づき、里人に百万に身の上を尋ねさせると、今までの出来事を歎く内容の曲舞(くせまい)を舞う。大念仏の群衆の中で、狂気する百万を不憫に思った里人は百万と子を再会させるのだった。

曲名になっている「百万」は、世阿弥作の能(山姥)のツレにも「百万山姥」として名前が登場するように、観阿弥や世阿弥の時代には既に伝説的な存在となっていた曲舞の名手の名前でした。

世阿弥は著書である『五音』に、「曲舞の流派には様々あるが、父・観阿弥は奈良の百万の系統の流れの、乙鶴という女曲舞に習った(意識)と、観阿弥が百万の末裔の曲舞師について学び、自作の能に取り入れたことを記しています。観阿弥は当時大人気の芸能だった曲舞を取り入れ、能の音楽リズムを改革し、ついには將軍をも魅了する芸を手に入れました。観阿弥が演じていた『嵯峨物狂』という能に、世阿弥が改作を加えて、能のクセの祖ともいえる百万を主人公にしたのが、現在の『百万』であると言われています。

狂言《附子》ぶす

用事で出かける主人が、太郎冠者と次郎冠者を呼び出して留守番を言いつけます。主人は桶を持ってきて中には附子という猛毒があるから注意して留守番をしろ、と言いついて出かけてきます。

二人は怖いもの見たさで桶のふたを取ってみると、中に入っていたのはなんと砂糖でした。二人は夢中で桶を取り合って皆食べてしまいます。

そして言い訳のためと言って主人秘蔵の掛け軸を破り、天目茶碗を割ってしまいます。

この後、何も知らずにご主人様が帰ってきて...

能《野守》のもり

「昔この野に住みける鬼のありしが、昼は人となってこの野を守り、夜は鬼となってこれなる塚に住みけるとなり」
出羽の羽黒山の山伏(ワキ)が大和へやってくる。「野守の鏡」という由緒ありげな池がある。そこで出会った野守(天皇の狩野標野「しめ」の管理をする番人)の老人(前シテ)に尋ねると、自分たちのような野守が鏡の代わりを使うから「野守の鏡」と呼ぶのだが、本当の「野守の鏡」は鬼神が持つ鏡のこと、その鬼神は昼は野守の姿となり、夜には鬼の姿になって塚に住んでいると言いつ、「はし鷹の野守の鏡得てしがな思はず他所ながら見む」という和歌のいわれを語った後、塚の中に姿を消す。

夜になると、野守の鬼(後シテ)が鏡を手に持って塚の中から現れ、天上界から地獄の底までを映して見せ、大地を踏み破って地獄へ帰っていくのだった。

「野守」の言葉は古くは『万葉集』額田王の和歌に出ています。「あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る」。当時は天智天皇の妃の一人だった額田王に対して、元夫の大海人皇子(後の天武天皇)が野で袖を振って呼びかけている。それをどこからともなく見ているかもしれない「野守」。この「野守」は天智天皇の暗喩ともされますが、野の中であればどこにでも出現しそうなイメージも伝わってきます。

野に精通し、ふと現れては消えていく野守。人間離れた存在に思えたのでしよう。そのため、能では野守の尉の正体は、天上界・地獄道を含めた全てを映し出す鏡の手にした鬼神として現れます。しかしワキの山伏が「恐ろしや打ち火輝く鏡の面に。映る鬼神の眼の光。面を向くべき様ぞなき」と怖がると「恐れ給はば...と帰ろつとする心優しい鬼神でもあります。

若手能事前講座について

公演当日平成二十七年一月三十一日(土)
午前十一時始(午前十時半開場)
本日の演目について、分かりやすく解説します。

※座席指定券ご購入の方対象。
座席指定券のみではご入場いただけません。前売券が必要です。

館内での許可のない撮影・録音はお断りしております。

